

# 第49回「新・日本の農村」

## 第49回「新・日本の農村」写真コンテスト 入選者

賞	氏名	県名	画題
最優秀賞	日浦 嘉孝	香川県	半夏生の頃
金賞	宮田 敏幸	兵庫県	春の苗つけ
銀賞	神保 吉数	北海道	散布の日
銀賞	本田 一浩	福島県	命懸けの出産(6枚組み)
銅賞	後藤 靖行	岩手県	五穀豊穣の儀
銅賞	千葉 守保	岩手県	厄払い人形の里
銅賞	名雪 誠	千葉県	「今夏、記録的猛暑」
銅賞	富所 上	新潟県	日照りに耐える…
佳作	畑端 憲行	北海道	はじめまして、お母さんだよ!!
佳作	村上 優子	岩手県	夕焼けの中で
佳作	足利 義信	岩手県	雪の朝
佳作	有田 勉	岩手県	田植えの伝承
佳作	関矢 昭子	群馬県	収穫
佳作	齊藤 芳正	神奈川県	後継者不在
佳作	高津 秀俊	山梨県	田園を疾走
佳作	村上 敏幸	山梨県	震災復興を願う
佳作	小山 恵理	新潟県	手伝って～!
佳作	白木 文枝	京都府	大きい～な大根だよ。
佳作	平田 晃一	岡山県	主、帰らず
佳作	古田 信子	広島県	干柿の里
佳作	杉浦 正幸	愛媛県	そば畑の夜明け
佳作	大坪 俊治	佐賀県	一家総出
佳作	森山 浩隆	長崎県	業(カルマ)
佳作	稲本 祥子	長崎県	白菜いりませんか?
佳作	川崎 信義	長崎県	春の田園
佳作	雀ヶ野 秀憲	宮崎県	夜の大根やぐら
佳作	中山 眞富	宮崎県	この農ある限り
佳作	仲程 梨枝子	沖縄県	光る君へ

## 金賞 「春の苗つけ」

宮田 敏幸さん 兵庫県



## 銅賞

### 「厄払い人形の里」

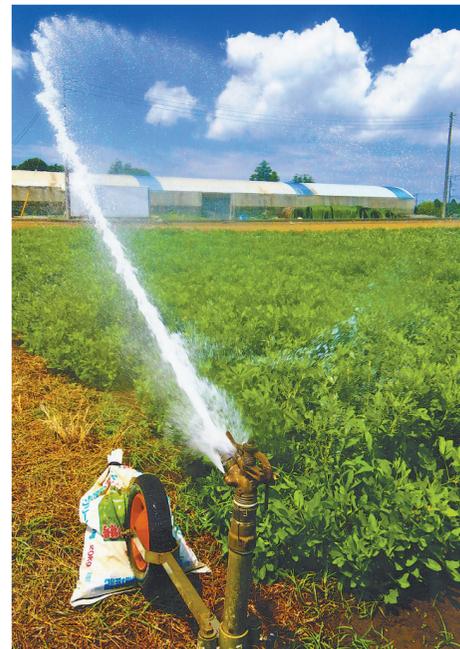
千葉 守保さん 岩手県



## 銅賞

### 「今夏、記録的猛暑」

名雪 誠さん 千葉県



## 銀賞 「散布の日」

神保 吉数さん 北海道



## 銅賞

### 「日照りに耐える…」

富所 上さん 新潟県



## 銅賞

### 「五穀豊穣の儀」

後藤 靖行さん 岩手県



# 最優秀賞「半夏生の頃」

日浦 嘉孝さん 香川県



# 写真コンテスト

現代的な農業・農村や農家の姿などをテーマに、集落での暮らしや農作業、災害などの写真を募集する農業共済新聞主催の第49回「新・日本の農村」写真コンテストの審査会(審査委員長・尾辻弥寿雄氏)日本写真家協会会員、日本リアリズム写真集団員がこのほど開かれ、各賞の受賞者が決定した。応募総数242点(応募者数103人)の中から、最優秀賞(賞金10万円と盾)には日浦嘉孝さん(香川県)の「半夏生の頃」、金賞(賞金5万円と盾)には宮田敏幸さん(兵庫県)の「春の苗つけ」が選ばれた。銅賞までの上位入賞作品を紹介する。

## 銀賞「命懸けの出産」(6枚組み)

本田 一浩さん 福島県



### 審査講評

#### 尾辻 弥寿雄

日本写真家協会会員  
日本リアリズム写真集団員

### 総評

今年も素晴らしい作品が多数応募されました。コンテストの総タイトルでありテーマである「新・日本の農村」を柱とした作品制作が確立されてきたと感じます。当初は、ノスタルジックな農村風景の作品が多数でした。写真愛好家たちが好んだ美しい農村や祭りの風景です。美しいだけの農村風景でなく、その地に暮らす人々の心情をう映像化できるかがポイントとなってきました。現代の農村、農民へ向ける視線こそ主催者が「新・日本の農村」と名付けた意図だと思えます。過去の受賞作品の多くが農民の息遣いが聞こえてくるものでした。今回の最優秀賞作品「半夏生の頃」

「も単純な祭事風景ではなく、祭事が終わった水田の脇で寝込んでしまった姿に、まるで、神に託す農民の心が映し出されているように感じました。デジタル機器の普及とともに自プリントが多くなりました。しかし、プリンターやソフトの進歩ほど写真愛好家のプリント技術は進んでいないようです。色やコントラストが極端だったり、プリンターの故障に気が付かないまま応募した作品も目撃されました。写真表現の仕上げがプリントです。次回に美しいプリントを期待します。

### 個別評

▽最優秀賞「半夏生の頃」  
日浦嘉孝(香川県)  
田の神様へ田植えを終え、

「も単純な祭事風景ではなく、祭事が終わった水田の脇で寝込んでしまった姿に、まるで、神に託す農民の心が映し出されているように感じました。デジタル機器の普及とともに自プリントが多くなりました。しかし、プリンターやソフトの進歩ほど写真愛好家のプリント技術は進んでいないようです。色やコントラストが極端だったり、プリンターの故障に気が付かないまま応募した作品も目撃されました。写真表現の仕上げがプリントです。次回に美しいプリントを期待します。

▽銀賞「散布の目」  
神保吉数(北海道)  
アムから噴出する水を横からの光で白く浮かび上がらせ、勢いをしっかりと映像化しています。画面の下半分を作物に、上半分を散布の水煙にした構図力が農民の顔も写しこんだ観察力が全体を引き締めています。

▽銅賞「五穀豊穡の儀」  
後藤靖行(岩手県)  
岩手県三戸の五穀豊穡祭「サイトギ」は、炎や火の粉の角や高さで作物の出来を占うという。夜空高く舞う火の粉は、今年の出来が良い兆候なのでしょう。シャッターチャンスを選択がよく、迫力ある作品となります。

▽銅賞「今夏、記録的猛暑」  
名雪誠(千葉県)  
今年の猛暑を象徴するような青空と夏雲。それに向かってくる水が弧を描き雲にまで届きそうな迫力で、空を切り裂くような現場の光景に圧倒された作者の驚きと感動が伝わってきます。

▽金賞「春の苗つけ」  
宮田敏幸(兵庫県)  
農地整備が進み統一された幾何学模様を生み出した畑。その畑に並ぶマルチシートはまさに春の現代農村の光景です。逆光のカメラポジションとハイアングルを組み合わせて、春の日差しを強調し、農地の壮観さまでも作り出しました。

▽銀賞「命懸けの出産」  
本田一浩(福島県)  
過去も多数応募されてきた被写体ですが、これほど丁寧に記録した作品は記憶にありません。出産という神々しいものへ立ちあえた驚きと喜びがあふれる力作です。しかし「組む」こと物写真の素嗜らしさが伝わります。

▽銅賞「厄払い人形」  
富所上(新潟県)  
水田に大きな亀裂が入ってしまっほこの日照りです。亀裂に目が向きやすい被写体を「日照りに耐える」という箱へ向けた視点

「も単純な祭事風景ではなく、祭事が終わった水田の脇で寝込んでしまった姿に、まるで、神に託す農民の心が映し出されているように感じました。デジタル機器の普及とともに自プリントが多くなりました。しかし、プリンターやソフトの進歩ほど写真愛好家のプリント技術は進んでいないようです。色やコントラストが極端だったり、プリンターの故障に気が付かないまま応募した作品も目撃されました。写真表現の仕上げがプリントです。次回に美しいプリントを期待します。